

研究課題名：

高知県中央東保健所管内における新型コロナウイルス感染症罹患後の死亡に関する疫学調査

研究の目的と方法：

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は呼吸器症状、高熱、下痢、味覚障害等様々な症状を引き起こす疾患であり、特に、高齢者や基礎疾患等リスク因子を持つ者の重症化や死亡が報告されています。高知県中央東保健所管内でも、2021年1月以降、COVID-19症例の増減を繰り返すとともに、死亡者が発生したと考えられていますが、その正確な死亡の実態は明らかにはされていません。

そこで、本研究では、オミクロン流行期である2022年1月以降における高知県中央東保健所管内のCOVID-19罹患後の死亡の実態を把握するため、当該保健所に届出されたCOVID-19患者様情報と死亡診断書情報から、COVID-19罹患後に死亡された方々の実態調査を実施することとなりました。COVID-19罹患後の重症者数や死亡者数を減らすためには、実態把握をすることが重要です。特に、死亡の影響が大きかったと考えられる高齢者の方々の状況を把握することが重要と考えています。

本研究の結果は、COVID-19対策に非常に有用な知見をもたらす可能性があり、社会的意義は非常に大きいと考えます。なお、本研究でいただいた情報を用いて個人を特定することはありません。また、研究の成果が学会や専門誌、報告書などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：

高知県中央東保健所へ2022年1月1日から2023年5月7日までの期間に発生届が提出されたCOVID-19（PCR等の核酸検出法または抗原検査が陽性）患者様

研究に利用する試料・情報：

- ・高知県中央東保健所に発生届があった感染者の情報（氏名、生年月日、年齢、性別、住所地、基礎疾患、感染時居所、発症後の主な療養場所、届出日、発症日、診断日、入院日、死亡日、新型コロナワクチン接種歴、検査所見、治療内容等）

- ・高知県中央東保健所内管理中の死亡小票（死亡日2022年1月1日から2023年12月31日）の閲覧

- ・住所地を高知県とする死亡個票及び死亡票（死亡日2022年1月1日から2023年12月31日）

研究の管理責任者：

国立感染症研究所 実地疫学研究センター 砂川富正・土橋西紀

高知県中央東福祉保健所・保健監（高知県中央東保健所長） 田上豊資